

Jークレジットの活用状況について

Jークレジット制度事務局

2022年10月28日



1-1. Jークレジット制度事務局による入札結果

- Jークレジットの大口活用者向けに、過去13回の入札販売を実施
- 再エネ発電由来のクレジットがCDP質問書に報告可能になり、需要家の注目を集めていることから、第4回以降は再エネ発電と省エネ他を分けて販売

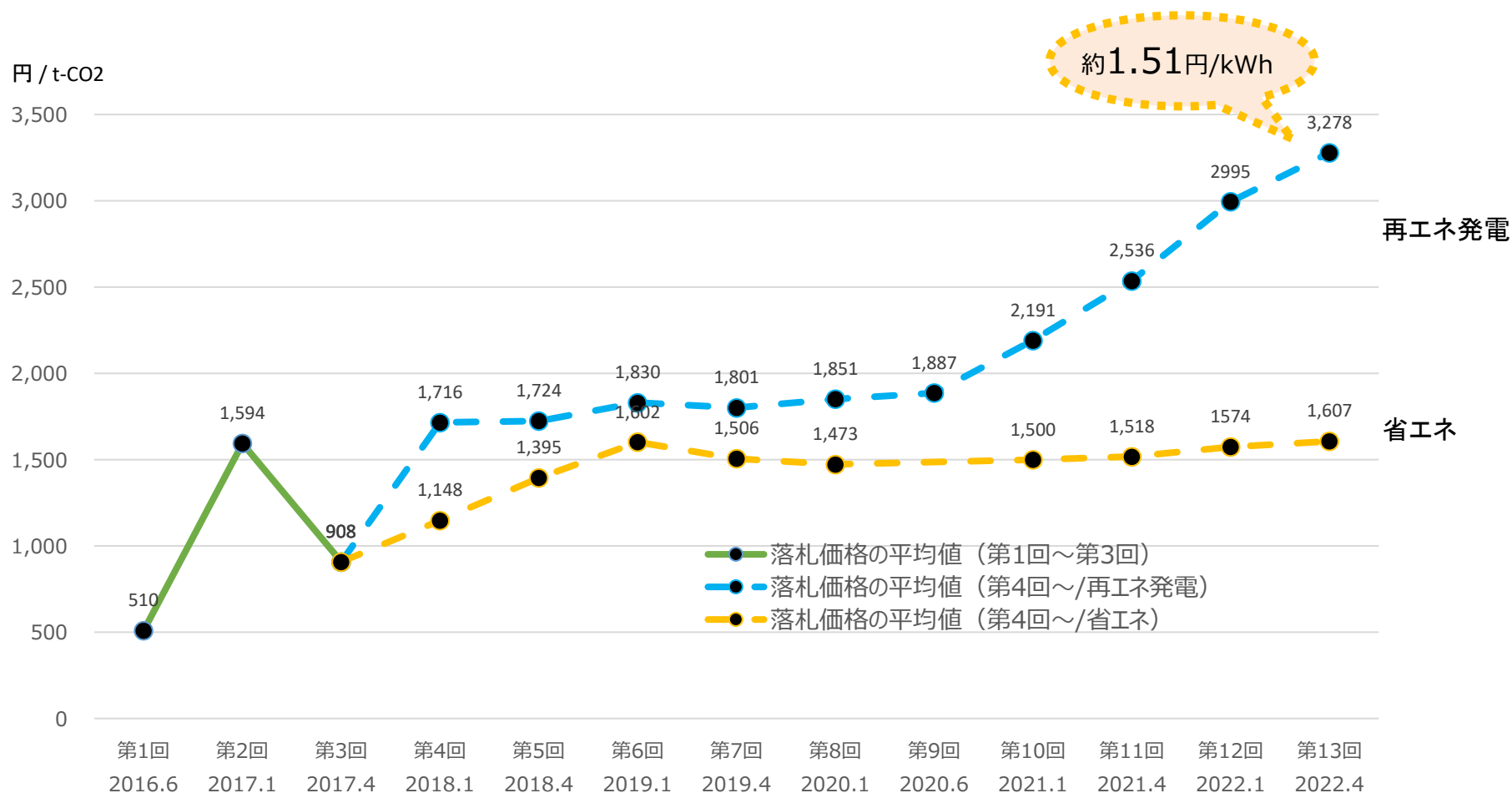
	開催時期	再エネ発電		省エネ他	
		販売量	平均販売価格	販売量	平均販売価格
第13回	2022年4月	200,000トン	3,278円/トン	100,000トン	1,607円/トン
第12回	2022年1月	250,000トン	2,995円/トン	24,305トン	1,574円/トン
第11回	2021年4月	200,293トン	2,536円/トン	100,000トン	1,518円/トン
第10回	2021年1月	250,000トン	2,191円/トン	100,000トン	1,500円/トン
第9回	2020年6月	200,000トン	1,887円/トン	0トン	落札なし
第8回	2020年1月	200,000トン	1,851円/トン	40,000トン	1,473円/トン
第7回	2019年4月	200,000トン	1,801円/トン	50,000トン	1,506円/トン
第6回	2019年1月	200,000トン	1,830円/トン	50,000トン	1,602円/トン
第5回	2018年4月	400,000トン	1,724円/トン	100,000トン	1,395円/トン
第4回	2018年1月	400,000トン	1,716円/トン	100,000トン	1,148円/トン

	開催時期	販売量	平均販売価格
第3回	2017年4月	500,000トン	908円/トン
第2回	2017年1月	500,000トン	1,594円/トン
第1回	2016年6月	1,000トン	510円/トン



1-2. Jークレジット制度事務局による入札の価格推移

■ 平均落札価格は以下の通り。活用方法が幅広再エネ発電由来Jクレは価格上昇中。



※平均値は、落札価格に当該落札トン数を乗じた合計を総販売量で除したもの。

1-3. GHG protocol Scope 2 Guidanceの登場による再エネJクレジットの需要増加

- 2017年CDP質問書への報告に、再エネ由来のJークレジットを、再エネ調達量として報告することが可能に（SBT, RE100にも使用可能であることを順次確認）。
 - その後、再エネ電力由来のJークレジットの入札価格が徐々に上昇。



The advertisement features the CDP logo on the left with the tagline "DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES". The main text in the center reads: "再エネ由来のJークレジットは CDP※質問書に再エネ量として報告できます" (Renewable energy derived J-Credits can be reported as renewable energy volume in the CDP※ questionnaire). Below this, a smaller line of text says: "詳細はJークレジット制度事務局までお問合せください。" (For details, please contact the J-Credit System Secretariat). A note at the bottom explains: "※CDPは、投資家向けに企業の環境情報の提供を行うことを目的とした国際的な非営利団体。気候変動等に関わる事業リスクについて、企業がどのように対応しているか、質問書形式で調査し、評価したうえで公表するもの。" (CDP is an international non-profit organization established for the purpose of providing environmental information of companies to investors. It investigates and evaluates how companies respond to business risks related to climate change, etc., in questionnaire form, and publishes the results). On the right, there is an illustration of a document labeled "クレジット" (Credit) with a CDP logo and a yellow arrow pointing to it. The bottom of the advertisement is decorated with a row of colorful icons representing various elements of a sustainable community, including houses, trees, solar panels, a person, a dog, and a bench.

CDP
DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

再エネ由来のJークレジットは
CDP※質問書に再エネ量として報告できます

詳細はJークレジット制度事務局までお問合せください。

※CDPは、投資家向けに企業の環境情報の提供を行うことを目的とした国際的な非営利団体。
気候変動等に関わる事業リスクについて、企業がどのように対応しているか、質問書形式で調査し、
評価したうえで公表するもの。

クレジット

2-1. J-クレジット取引方法

■ 従来の取引方法に、2022年9月からカーボンクレジット市場実証が加わり、選択肢が広がった。

- 2022年度後半はJクレ事務局による入札は行わず、2022年10月から2023年1月にカーボンクレジット市場で販売予定。

相対取引

■ 仲介事業者を利用する場合

仲介事業者を利用しない
直接の相対取引も可



仲介事業者*を介した相対取引（売買仲介）でクレジットの売買価格と売買量を決めます。

*J-クレジット・プロバイダー等

仲介事業者（J-クレジット・プロバイダー）

株式会社イトーキ
株式会社ウェストボックス
カーボンフリーコンサルティング株式会社
ブルードットグリーン株式会社
一般社団法人 more trees
Waara株式会社

■ J-クレジット制度HPを利用する場合

別途
説明



売りたい方と買いたい方との相対取引でクレジットの売買価格と売買量を決めます。

掲載後、6か月以上取引が成立していない場合

入札販売

J-クレジット制度HP「売り出しクレジット一覧」へ掲載後、6か月以上取引が成立していない場合、希望者は入札販売の対象となります。



- ・クレジットの売買価格と売買量は、落札によって確定します。
- ・販売クレジットは、政府保有クレジット分を含めて実施します。

カーボンクレジット市場実証 （2022年9月～2023年1月）



2-2. カーボンのクレジット市場

- カーボンのクレジット市場での取引結果は毎日16時ころに日本取引所グループのHPに掲載。

<https://www.jpx.co.jp/equities/carbon-credit/index.html>

カーボン・クレジット市場



東京証券取引所では、経済産業省からの委託事業として試行取引を行うカーボン・クレジット市場の実証を、2022年9月22日に開始しました。また、カーボン・クレジット市場に関する情報を順次、掲載してまいります。

【関連リンク】

- ① 経済産業省 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 〓
- ② 経済産業省 GXリーグ基本構想 〓
- ③ GXリーグ設立準備公式Webサイト 〓
- ④ J-クレジット 〓

市場制度

カーボン・クレジット市場日報

売買停止情報

- ① 制度概要
- ② 市場への参加について
- ③ よくあるご質問

📧 お問い合わせ

東京証券取引所 カーボン・クレジット市場整備室
E-mail : carbon_info@jpx.co.jp

※カーボンクレジット市場関連のお問い合わせについては、
東京証券取引所 カーボン・クレジット市場整備室までお願いいたします。

2-3. J-クレジット制度HP 売り出しクレジット一覧

■ 売り手が希望したクレジット情報を掲載

(URL : <https://japancredit.go.jp/sale/>)

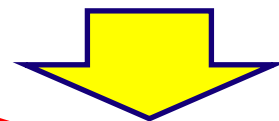
■ 実施場所・実施地域・プロジェクト種別・クレジット量等に基づく検索、クレジット量に基づくソートが可能

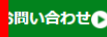
■ HPに各クレジットの保有者の連絡先を掲載

■ 希望販売価格は掲載していなかったが、10月中旬から任意で掲載可能とした。

実施地域	都道府県から選択 選択してください	全国・広域から選択 選択してください
実施場所	選択してください	
制度名	☒ J-クレジット ☒ 国内クレジット ☒ J-VER	
プロジェクト種別	選択してください	
クレジット保有者名	クレジット保有者名	
希望購入量	例)1000 t-CO2	
フリーワード検索	フリーワード ※プロジェクト実施者、実施地域、実施場所、プロジェクト概要、クレジット保有者、適用方法論の各項目を検索します。	
上記条件で検索する  リセット		

希望販売価格欄と備考欄を追加予定



制度名	プロジェクト番号	プロジェクト実施者・法人番号	実施地域	プロジェクト概要	プロジェクト方法論	再エネ(電力) (MWh/t-CO2)	再エネ(熱) (GJ/t-CO2)	省エネ (kI/t-CO2)	経団連カーボンニュートラル行動計画への利用	売却可能量最小 (t-CO2)	売却可能量最大 (t-CO2)	対象期間開始日	対象期間終了日	希望売却価格 (税抜) (円/t-CO2)	備考欄	クレジット保有者 連絡先
J-クレジット	10	中標津町 9000020016926	北海道標津郡中標津町	町有林における森林経営活動	FO-001 Ver 2.0	900	500	8.35	可	1	2,373	2014/04/01	2020/10/31			

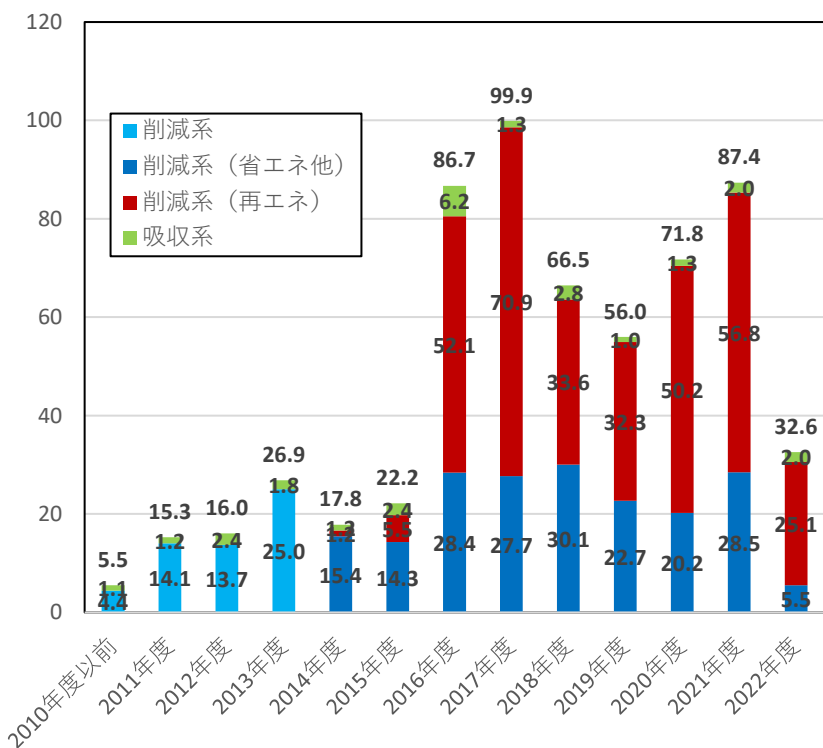
2-4. 無効化①

■ 2016年度以降は「温対法（係数）」が最多だが、近年は「オフセット等」も増加。

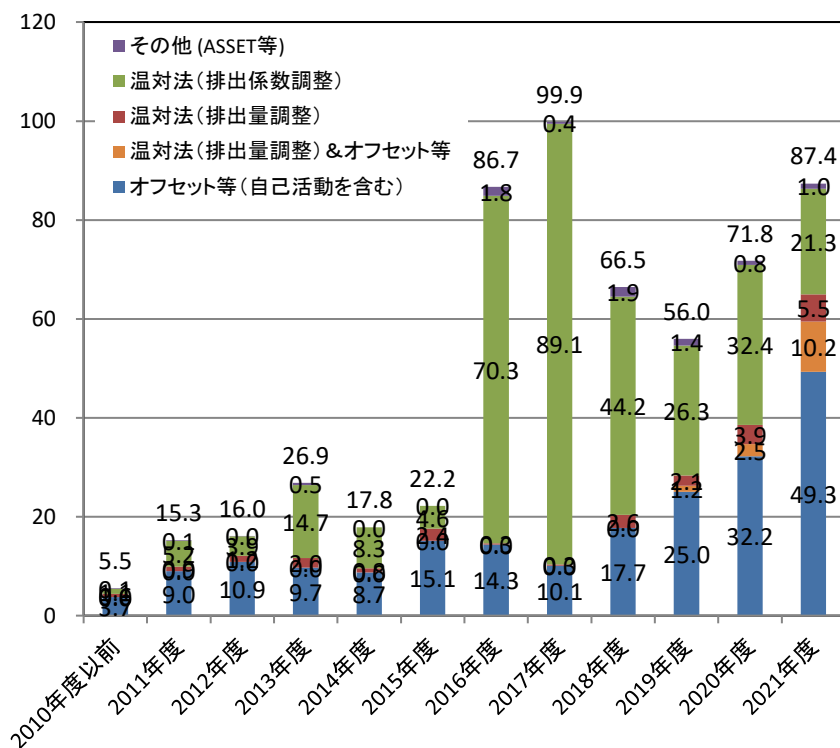
無効化とは、J-クレジット登録簿上でJ-クレジット、J-VERを無効化償却口座に移転し、それ以降移転できない状態にすることを指す。
償却とは、J-クレジット登録簿上で国内クレジットを無効化償却口座に移転し、それ以降移転できない状態にすることを指す。

<クレジット種別・目的別 無効化・償却量の推移>

万t-CO2



万t-CO2



2022年9月30日時点の実績

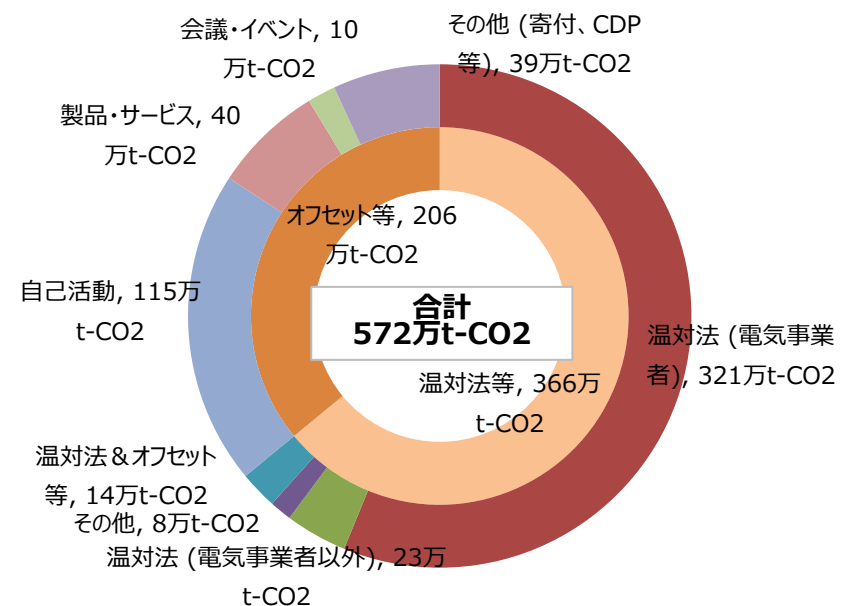
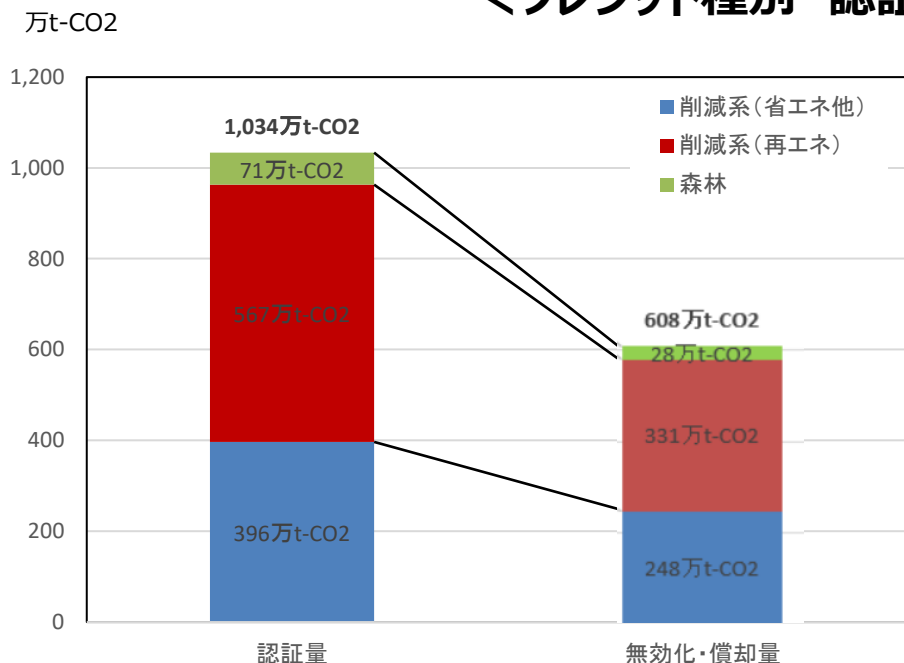
2022年3月18日時点の実績

※2013年度以前の無効化・償却量の内訳は削減系と吸収系のみで区別されている。

2-5. 無効化②

- 全認証量1034万t-CO₂中、これまでに無効化・償却されたクレジットは、608万 t-CO₂
2008年度以降のJークレジット、国内クレジット、JーVER全てのクレジットの累計。
- 削減系（再エネ）クレジットの認証量に対する無効化・償却量は約58%,削減系（省エネ）は約63%, 吸収系クレジットは約40%
- 電力の排出係数調整、自己活動や製品・サービスのオフセットへの利用が多い

<クレジット種別 認証量VS無効化・償却量>



2022年9月30日時点の実績

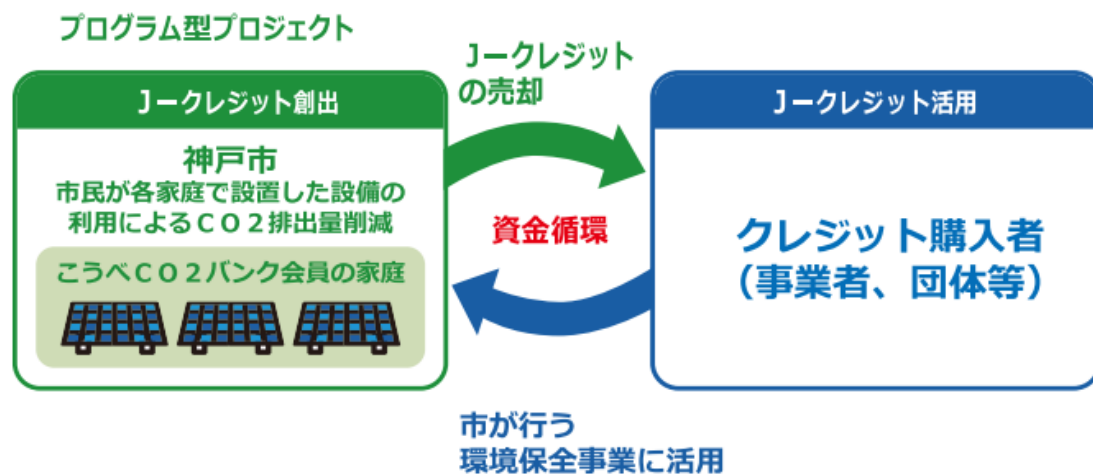
2022年3月18日時点の実績

※ 2013年度以前の削減系の無効化・償却量の内訳はデータがないため、全て削減系（省エネ）としている。



3-1. クレジット創出から活用まで地産地消の取組

■こうべCO2バンク ～CO2の削減を環境価値に～ / 神戸市



Point!

創出から活用まで
市民のCO2削減
活動が地球温暖化
防止の啓発に

<概要>

- 神戸市では、市民の住宅用太陽光発電システム・燃料電池の設置によるCO2排出削減をクレジット化（環境価値化）し、地域の環境保全活動につなげる仕組みを構築
- クレジット認証量（2022年3月末時点の累積）：**38,370 t-CO2**
- 企業などに売却して得られる収益は、神戸市が行う環境保全事業に活用
- 神戸ルミナリエなど市民に身近なイベントでのカーボン・オフセットの実施により、市民へ地球温暖化防止の普及啓発
- スマートフォンアプリ「イイことぐるぐる」の活用

太陽光・
燃料電池

（出所）Ｊークレジット制度HP: <https://japancredit.go.jp/case/23/>

3-2. イベントのカーボン・オフセット

■第1回 空気のみらいEXPO/大阪・関西万博 開催支援EXPOのカーボン・オフセット



Point!

イベント出展事業者 の参加型取組

<概要>

- 2022年3月15-16日にインテックス大阪で開催された同イベントは、「環境配慮型展示会」として、出展者の皆様に環境負荷軽減分担金の負担をお願いし、CO2や廃棄物の削減やリサイクル素材の活用等に使用。一部を活用し**93トン**のカーボン・オフセットを実施。
- 来場者・スタッフの移動・宿泊、紙・水の使用、廃棄物処理に伴い排出するCO2を対象にオフセット。
- 出展社**128社**はEXPOの報告書内に掲載してPR

バイオマス

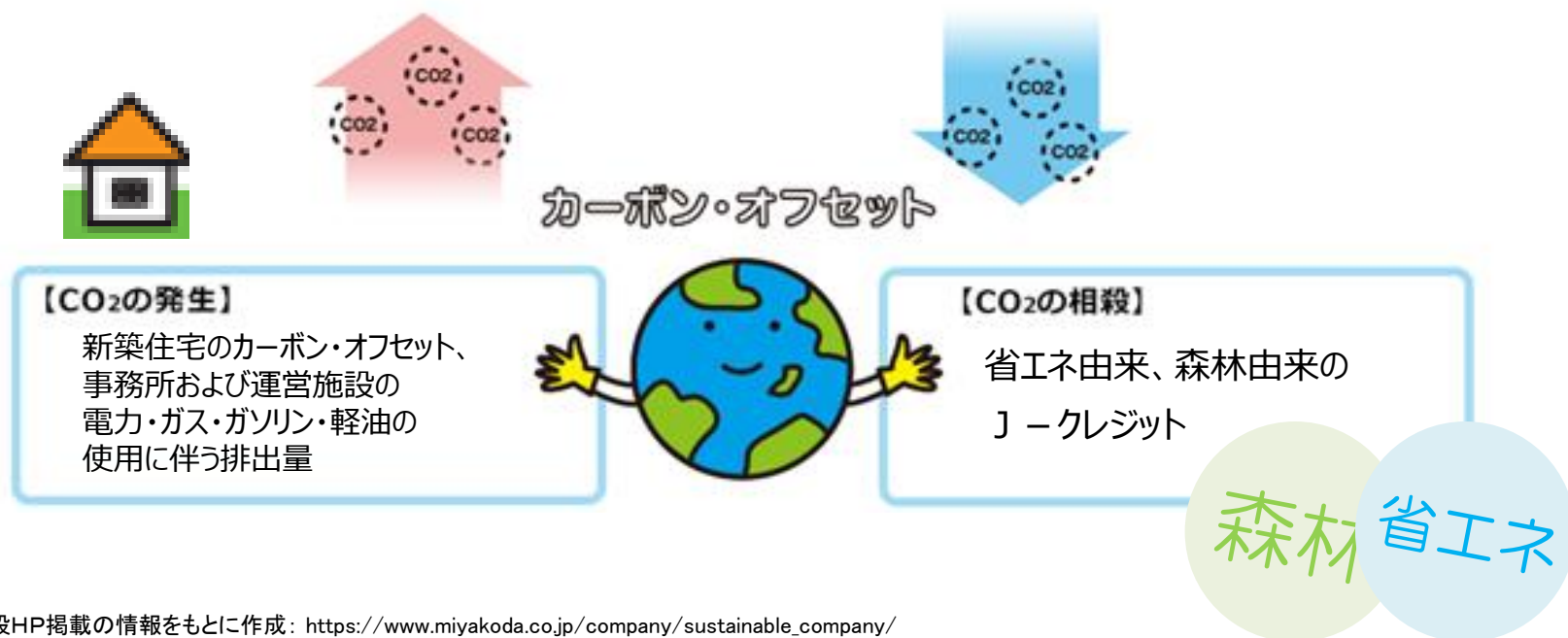
(出所)J-クレジット制度HP: <https://www.japancredit.go.jp/cp/94/>

3-3. 住宅のカーボン・オフセット

■ 都田建設が新築する住宅のカーボン・オフセット / 浜松市

<概要>

- 新築注文住宅の材料調達と建築時及び企業活動で排出するCO₂の一部を、省エネクレジットでカーボン・オフセット。
- 当該取組は、第5回カーボン・オフセット大賞（2015年）優秀賞を受賞し、その後も継続してカーボン・オフセットに取り組んでいる。



(出所) 都田建設HP掲載の情報をもとに作成: https://www.miyakoda.co.jp/company/sustainable_company/
カーボン: <https://www.jcos.co/取組一覧/カーボン・ニュートラル認証/>

3-4. 商品の寄付型オフセット

■ J-クレジットの地産地消を通じた温暖化対策と商品価値向上



カーボン・オフセットシール付き商品 提供中

経済産業省、環境省等が推進している
J-クレジット制度の仕組みを活用した
「カーボン・オフセット付きシール」を商品に添付
し提供しています。
この商品を購入することで、1kgのCO2削減
に貢献します。

子供たちの未来のために、
みんなで地球温暖化防止！



☆ J-クレジット制度とは、省エネ再エネ設備の導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度であり、経済産業省・環境省・農林水産省が運営しています。
☆ カーボン・オフセットとは、活動で排出する分を、J-クレジット等（排出権）で「埋め合わせ」にすることです。つまり、地球全体で見ると負荷をかけていない取組です。



<概要>

- 株式会社管野組が栽培している「じゅんさい」に、J-クレジットを活用した**カーボン・オフセットシール**（1枚につき1kg-CO2を付与。）を添付して販売
- 温暖化対策、商品価値向上、啓発・P R
- クレジット売却代金は、町内の温暖化対策や地域活性化関連事業等と、社会貢献（東日本大震災 被災孤児・遺児の未来を、夢を応援するための寄付）に活用

バイオ
マス

（出所）J-クレジット制度HP: <https://www.japancredit.go.jp/cp/80/>



3-5. 「1品1円」の寄付型オフセット

■ 1品1円の寄付型オフセットと、道の駅運営で生じるCO2のオフセット / 日南町（鳥取県）



お買い物 = 森林支援

+1円

日野川の郷でのお買い物で、
1商品につき1円が日南町の森林支援に役立てられます。



<概要>

- 道の駅で販売するすべての商品に1品1円をプラスし、消費者がオフセットに参加できる**寄付型オフセット**を実施。
- 並行して、道の駅にちなん日野川の郷の運営から生じる電力使用等に伴うCO2全量を、日南町有林 J-クレジットを利用してカーボン・オフセット。
- 寄付型オフセットでは、消費者が町の森林保全活動に貢献できる仕組み。

森林



3-6. 農作物生産時に使用する農機具から排出するCO2のオフセット

■ 美味しいお米づくりから6次農業化を目指す、株式会社NAKAMICHI FARMの地球温暖化対策と北海道の環境保全活動に貢献するカーボン・オフセット

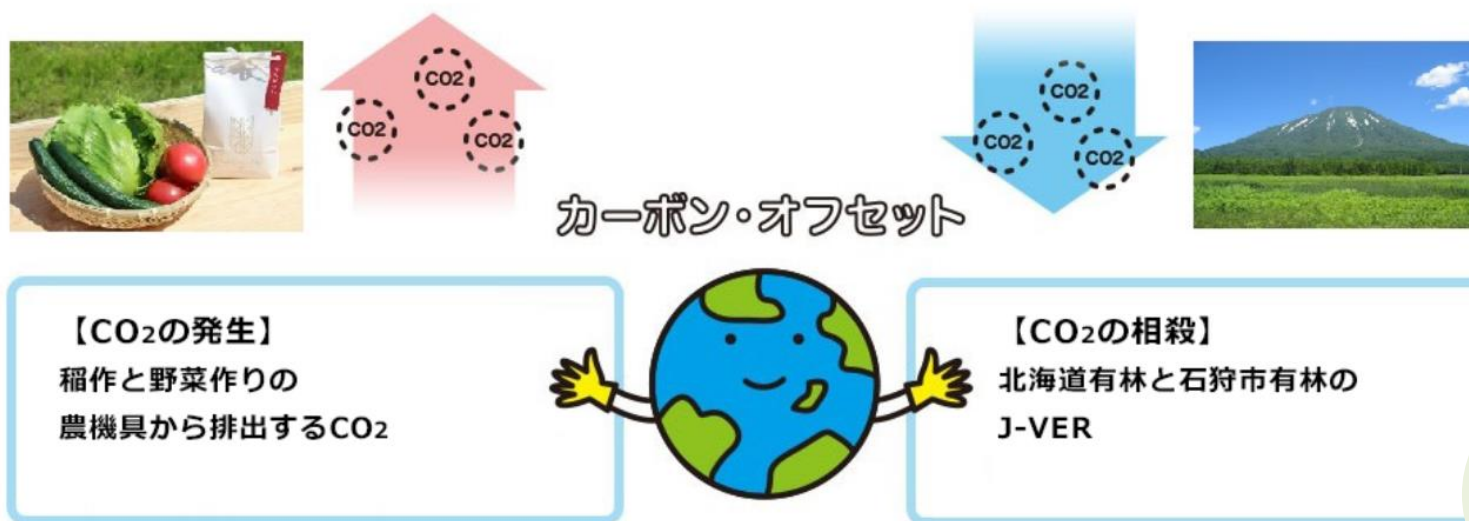
<概要>

- 稲作・野菜の生産工程で、農機具等から排出するCO2を、北海道有林と石狩市有林から創出したJ-クレジットでカーボン・オフセットする取り組み。

【無効化量】 3t-CO2

Point!

クレジットの地産
地消と、市内の
資金循環を実現



(出所)J-クレジット制度HP: <https://www.japancredit.go.jp/cp/89/>

3-7. 事業活動のカーボン・オフセット

■ 出雲ガスにおけるガス事業のカーボン・オフセット

<概要>

- 出雲ガス株式会社は、2021年度から2025年度（5年間）のガス事業に伴う保安業務、営業・修理・工事業務において発生するCO₂排出量の一部をカーボン・オフセット（**150t-CO₂**）
- 神話の國出雲さんさん倶楽部（出雲市・住宅への太陽光発電設備導入によるCO₂削減事業）が創出したJ-クレジットを活用することで、出雲市内の環境価値の地産地消を実現。

Point!

環境貢献企業としてのPR、クレジットの地産地消



(出所)J-クレジット制度HP: <https://www.japancredit.go.jp/cp/87/>

3-8. ふるさと納税返礼品として「カーボン・オフセット」

■ ふるさと納税返礼品として「カーボン・オフセット」

ふるさと
納税



<概要>

- ふるさと納税の**返礼品として**地元産クレジットを活用した「カーボン・オフセット」をメニューに挙げている。
(返礼品として、カーボン・オフセットを実施したことを示す「証明書」等を発行している。)
- いずれも地元の森林から創出したクレジットが対象。

※2022年10月17日時点で確認ができた自治体は以下のとおり。

- ・ 浦河町、下川町、上士幌町、中標津町、滝上町（北海道）
- ・ 横手市（秋田県）
- ・ 養父市（兵庫県）
- ・ 日南町（鳥取県）
- ・ 三原村（高知県）
- ・ 久留米市（福岡県）

Point!

ふるさと納税の利用者へ
J-クレジットと、その活用で環境に貢献できることを周知

Point!

消費者が手軽に、
ふるさと納税を通じて
「カーボン・オフセット」を行うことができる

森林

3-9. J-クレジット活用事例のご紹介

クレジット活用

活用方法

- ▶ 活用方法の概要
 - ▶ 温対法・省エネ法での活用
 - ▶ CDP・SBT・RE100での活用
 - ▶ カーボン・オフセットに使う
 - ▶ カーボン・オフセットスキーム（How to）
 - ▶ どんぐり制度
 - ▶ カーボン・オフセット宣言
 - ▶ SHIFT・ASSET事業に活用
 - ▶ 経団連カーボンニュートラル行動計画の目標達成に活用
 - ▶ 環境配慮契約法上の活用（小売電気事業者）

活用手続

- ▶ 活用手続の概要

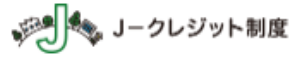
活用事例

- ▶ 活用事例一覧
- ▶ イベント揭示版
- ▶ 国立公園カーボン・オフセットキャンペーン

Point!

他の事例は
こちらから
検索！

3-10. Jークレジット活用事例のご紹介



お問い合わせ サイトマップ English

ホーム Jークレジット制度について 申請手続 登録・認証情報 クレジット売買 クレジット活用 問合せ・資料等

ホーム > クレジット活用 > クレジット活用事例一覧

クレジット活用事例一覧

Jークレジットを使ってカーボン・オフセットした活用事例をはじめ、創出事例も検索できます。
検索したい内容のアイコンをクリックすると、関連する事例が一覧で表示されます。また、オフセット事例や取組事例別、もしくはキーワードや掲載日から検索が可能です。

オフセット事例で検索

会議 (10事例)	イベント・スポーツ (79事例)	商品(モノ) (942事例)
サービス (43事例)	印刷物 (114事例)	複合機 (153事例)
工事 (12事例)	キャンペーン (13事例)	その他 (37事例)

取組事例別で検索

オフセット宣言 (832事例)	どんぐり制度 (451事例)	イベント掲示板 (91事例)
創出 (21事例)	温対法/省エネ法報告に活用 (3事例)	その他活用 (5事例)

キーワード（事業者名など）で検索

掲載日で検索

西暦 月 日 ~ 西暦 月 日 まで

ご案内

- 創出事例15件含め、活用事例を**1,400件**掲載

(URL : https://japancredit.go.jp/case_search/)

- オフセット事例、取り組み事例、キーワード、掲載日で**検索**が可能
- 取組を申請することで掲載されます。

宇宙のまち“大樹町”の地球に優しい取り組み2019
～まちと企業がタッグを組んでJークレジットによる地域貢献～



1. イベントの概要

大樹町が造成風景で創出したJークレジットを、町内に工場を有する豊印メグミルク㈱が購入し、大樹工場から排出されるCO2の一部をカーボン・オフセットしています。Jークレジットの知産地消を通じた地域貢献として、自治体と企業が一体となって進める。地域における環境対策と地域活性化の取り組みです。クレジット売却代金は、町内の森林を保全するための活動等に活用されます。

オフセット対象期間：
2019年4月1日～2020年3月31日

2. 主催者

実施主体：大樹町 豊印メグミルク㈱

3. カーボン・オフセットの内容

豊印メグミルク株式会社、2019年度事業活動で排出するCO2の一部をオフセット（豊印メグミルク㈱大樹工場）

【無効化量】20.1t-CO2



【CO2の発生】
豊印メグミルク㈱大樹工場での事業活動で排出するCO2

【CO2の吸収】
大樹町が、町内産木質バイオマスを活用し造成風景で創出したJークレジット

4. 情報発信

・大樹町HP等で情報発信しています。

3-11. 算定ツールでCO2実質ゼロ会議の算定から取組可能



↑
HPへのアクセスはこちらから。

- 簡単な入力でCO2排出量が算定できるツールを公開しています。ぜひご活用ください。オンライン会議にも対応。

会議名称：	開催に伴い排出するCO2の合計：	0.41 t-CO2
-------	------------------	-------------------

無効化量は **1 トン**

※小数点以下は切り上げ。

■出席者の移動にともなうCO2排出量算定									
番号	移動者 ※入力してください	移動方法 ※選択してください	(排出原単位)	×【出発地 ~ ※入力してください	会議開催地までの距離 ※入力してください	【片道】 ※入力してください	×往復/片道 ※選択してください	×人数 ※入力してください	= 排出量
【例】	A社 さんの移動：	バス（営業用乗合）	0.0836	〇〇バス停 ⇒	△△バス停	2.7 km	往復	3	0.001
		旅客航空機（国内）	0.11	△△空港 ⇒	××空港	500 km	往復	3	0.330
		旅客鉄道	0.0236	××駅 ⇒	□□駅	30 km	往復	3	0.004
出席者1：	Jクレ さんの移動：	旅客航空機（国内）	0.11	羽田空港 ⇒	新千歳空港	894 km	往復	2	0.393
		旅客鉄道	0.0236	新千歳空港 ⇒	札幌	47 km	往復	2	0.004
						km			
出席者の移動に伴うCO2排出量の合計：									0.398 t-CO2



■会議室、会場等の利用によるCO2排出量算定					
	会議室名 ※入力してください	会議室の面積 ※入力してください	×会議開催時間 ※入力してください	×排出原単位	= 排出量
		単位	h		
【例】	関の間	1000 m2	5 時間	7.27E-06	0.036
会議室1：	国際ホール	195	2 時間	7.27E-06	0.003
会議室2：			時間	7.27E-06	0.000
会議室3：			時間	7.27E-06	0.000
会議室、会場等でのエネルギー使用に伴うCO2排出量の合計：					0.003 t-CO2





J-クレジット制度事務局

(みずほりサーチ&テクノロジーズ株式会社 サステナビリティコンサルティング第1部)

TEL : 03-5281-7588

E-mail : help@jcre.jp

J-クレジット制度ホームページ

<https://japancredit.go.jp/>

